

私に影響を与えた交換留学での挫折

学籍番号 2502001 氏名 山梨太郎

私に変化したきっかけは、大学2年生のときの、タイへの交換留学体験である。留学する前までの私にとって、失敗は避けるべきものでしかなかった。しかし、留学体験によって、失敗は成功への第一歩だと考えられるようになった。

交換留学に行くのは、高校時代からずっと持ち続けていた夢だった。もともと、自分は人前に立つのが好きなほうだった。海外の人とも英語で交流し、新しい人間関係を築いてみたいと思っていた。そして、大学で交換留学に応募し、タイへ3か月留学できることになったのである。新しい環境への期待は非常に大きかった。

ところが、留学に抱いていたバラ色の想像は、あっけなく砕かれた。自分の英語が思ったほど通じなかったのである。これは、英語に自信があった自分にはショックだった。そのうえ、リスニングも予想以上に難しかった。授業で先生やクラスメートの発言内容がおおまかにしか聞き取れないのが非常にストレスだった。すっかり英会話に自信を無くし、授業中も積極的に発言できず、プライベートでも友達の輪に入っていけなかった。生まれて初めて味わった挫折感だった。

こうして、すっかり臆病になり、内向的になってしまっていたが、ある日突然転機が訪れた。ひと月ほどたち、耳が慣れてきていたのだろう。クラスメートたちのパーティーの企画の話し合いを聞いていると、彼らの英語は実は決して完璧ではなく、間違いが多いことに気づいてはとした。それでも、みな、コミュニケーションを堂々としあい、対話がなりたっていた。間違ってもかまわないんだ、と心から感じた。間違いは恥ずかしいことではなく、チャレンジの結果なのだ。

間違いはチャレンジの証だと気づいてからの私の変化は速かった。積極的にコミュニケーションし、外国語の間違いはあとで直すようにした。失敗を恐れず、それを次に活かそうとすることで、自分の成長を感じられ、やる気が出た。英語に自信がつくと、友達も増えた。最終的に、パーティーを企画し、リーダーシップをとっている自分がいた。クラスメートからも、たった数か月で大きく変わったと驚かれた。

今、自分にはあたらしい教育モデルを作り、経営したいという夢がある。おそらく失敗もあるだろうが、今の自分はそれを恐れない。慣れないこと、新しいことにチャレンジしたときは失敗が当然なのだから、失敗を悔やまず、チャレンジした自分を褒める姿勢を大切にす。そして最終的に大きな成功を手にしたい。(1011字)